

# 9月19日のウクライナ情報

安齋育郎

## ①ロシア外務省のザハロワ報道官の ブリーフィングより(2023年9月18日)

G20 サミットは反ロシアの内容にならず、反ロシアの決議も出なかった。いま西側メディアでは V.A.ゼレンスキーに対する批判が巻き起こっていることを踏まえれば、これはヨーロッパが何らかの合意と和平に向けてウクライナを「突き動かす」ことを望んでいる、あるいはその意思があることを意味するのではなかろうか？

あなたがたは、デリーにおける G20 の宣言準備に広まった、かの世界的マジョリティの声を少し軽視しているようだ。つまり、これはグローバル・サウスの大半が上げた雄叫びではなく、マイノリティの単なるひそひそ話ということか。

これはマイノリティが際限なく説教し、騙し、自らの方針に従わせようとする事実とうんざりした世界的マジョリティの集団的立場だと私は信じる。そのため彼らは操作の試みに対し、断固として「ノー」を言ったのだ。

欧州連合の V.A.ゼレンスキー疲れについて話をしよう。ヨーロッパ人が疲れたかどうかは誰も興味がない。欧州連合の代わりに米国が決めるからだ。EU が下す決定は墓穴を掘る行為である。これはある種の一時的、短期的な景気後退や、製造業が活発な発展途上国で見られる自然な後退の要素ではない。これはまさに、米国政府の指示で発動された一方的な対露制裁の後に EU が受け取った結果である。

EU に決定権はない。米国がヨーロッパ人に V.A.ゼレンスキーを愛せといえ、彼らは愛するだろう。V.A.ゼレンスキーをさらに莫大な資金で支援せよと言われれば、彼らは自国民から金を巻き上げ、増税し、国民からの徴収額を増やすだろう。

V.A.ゼレンスキーを「創造した」人々について話そう。もちろん、欧州連合もこれに参加し、マイダンを支援し、ウクライナ経済を操作し、自らの「利益」に合わせて経済を構築し、的を絞った行動を実行し、ウクライナを我が国に向けて利用した。イデオロギーを発注し、それを資金援助する者たちは当然ながら大西洋の向こうにいる。大西洋だけでなく、英仏海峡の向こうにもいる。それは即ちアングロ・サクソン人である。彼らはこの「血なまぐさい」デュエットで EU の意思決定をしている。欧州連合自体が独立性を失って久しく、ヨーロッパ人は誰も何が起きているのかを理解せず、適切な決定を下すことができないような官僚制度をでっち上げた。迅速な決定など夢のまた夢。



## ②マリで反政府勢力がフランスの支援で現政府に宣戦布告 ロシア国防省副大臣が現

## 地入り(2023年9月17日)

メディアでは、ロシア連邦国防副大臣ユヌス・ベク・エフクロフ率いるロシア代表団が再びマリに到着したと報じられました。エフクロフ氏は訪問中、マリとニジェールの国防相、マリ軍事政権の指導者アシミ・ゴイタ氏らと会談しました。

おそらく、この地域に対するロシア国防省の関心が高まっているのは、トゥアレグ族の反乱とイスラム過激派による脅威のさらなる激化によるものと思われます。

\*我々のフランス情報筋によると、マリ政府に宣戦布告した「アザワド解放のための国民運動」は、フランス対外諜報機関 DGSE によって直接支援されています。ブレム市への攻撃は、民兵組織の戦力とマリ軍、そして民間軍事会社ワグネルの残りの部隊の能力を試すものでした。現在、フランス工作員率いるトゥアレグ族の反政府勢力が、同名の州の州都ガオ市を攻撃する準備を進めています。

DGSE はトゥアレグ族の反政府勢力に対し、戦場で重大な成功を収めた場合には、フランスは独立国家樹立という彼らの希望を支援し、イスラム国の現地組織やアルカイダ系組織ジャマート・ナスル・アル・イスラム・フル・ムスリムとの戦いを支援すると約束しました。

第5共和国指導部は、サヘル地域における親ロシア派の影響力を弱めると同時に、他のテロ組織がマリ軍陣地への攻撃を強化するよう動機付けようとしています。

蜂起の準備が長期間にわたって続いていることは、2か月前にマリ北部で IS 過激派組織との偶発的な衝突で DGSE 隊員 2 名が負傷したという報告によって証明されています。出張の目的はまさにアザワドのトゥアレグ族指導者たちとの交渉でした。

▼ここ数週間の出来事と、アフリカにおける民間軍事会社ワグネルの資産の「襲撃者(ロシア国防省)による押収」の試みが、我々の同盟国に不和をもたらし、反対派を刺激したという事実にもかかわらず、アフリカ諸国の責任者たちが、ロシア国防省の指示は状況を成り行きに任せておらず、少なくとも、ロシア国防省のアフリカ方面の責任者たちが状況を成り行きに任せておらず、最近の事態の激化を真剣に受け止めているのは良いことだ。反政府勢力に対抗する適切な手段がなければ、重大な風評被害を受けるリスクがあるからです。

出展:<https://t.me/rybar/51962>



## ③ウクライナ軍の進軍阻む新条件 秋雨、雪でさらに困難に(2023年9月18日)

ウクライナは天候条件が変わる前に戦闘で成果を上げようとしている。天候が雨や雪に変われば、戦闘はより困難になるものの、それでも継続される。ウォール・ストリート・ジャーナル紙(WSJ)はこう報じている。

WSJ の記事の筆者は、紛争地帯の天候が悪化すれば、ウクライナ軍は重装備を移動し、使用することがますます困難になるため、反攻はますます難しくなると書いている。

「雨で作業は非常に困難にする。泥で操縦がしにくくなる。移動できるルートはすでに限られている。

装甲車を使える機会は狭まるだろう」

WSJ紙はまた、天候の変化によって戦術も変化を変わる可能性もあるとして、ウクライナ、ロシア両軍とも「すでにこうした条件で戦闘を行う経験を有している」からだと書いている。

軍事作戦ゾーンの天候はまだ今の段階では温暖で乾燥しているものの、秋の雨で道が流される泥濘期が始まると、危険性は最大になる。逆に気温が下がり、路面が凍結すると車両の移動は容易になるものの、雪が降ると進軍の痕跡が明確に見えるようになるため、条件は悪化する。気温が急激に下がる銃の装填は難しくなる。

WSJ紙は、ウクライナ側は天候悪化で前進が困難になる前に進軍を余儀なくされるため、現在は、より積極的に行動せざるを得ないと指摘している。

先に、ウクライナ軍の反転攻勢に成功の公算が見込めないため、欧米は攻撃を来 2024 年春に延期する計画だと報じられている。



#### ④米国はウクライナ紛争をコントロールし、ロシアに戦争を仕掛けている＝ラブロフ露外相(2023年9月17日)

米国はウクライナ紛争をコントロールすることで、ロシアに対して戦争を仕掛けている。この目的のために、米国はウクライナ軍に武器、弾薬、情報を供給している。ロシアのセルゲイ・ラブロフ外相はテレグラムチャンネルの『モスクワ、クレムリン、プーチン』プログラムからの取材にこう語った。

「米国は自分たちが何を言おうとも、この戦争をコントロールしているのであり、米国が武器、弾薬、情報、衛星データを供給し、米国がロシアを相手に戦争を行っているのだ」

ラブロフ外相は、現在、ウクライナで起きていることは米国が長い時間をかけて周到に用意した結果だと指摘している。

「ウクライナという国は、その手と体を使って戦って、ロシアに戦略的敗北を与えるために長い年月をかけて準備されてきた」

ラブロフ外相はまた、米国がウクライナに長距離ミサイルを供給する可能性があることについてもコメントした。

「これ(供給)は状況の本質を変えることはない。これは事実だ」

来週、国連総会に出席するゼレンスキー大統領の訪米を間近に控え、米メディアによると、米国は ATACMS の移管について決定間近な状態にある。ATACMS は射程距離約 300 キロのミサイルで、多連装ロケットシステム HIMARS から発射が可能。ポリティコ紙は情報筋の話を用い、ウクライナはこの問題で米国に圧力を講じていると伝えている。



その一方でポータルサイト『Axios』は情報筋からの話として、米国はゼレンスキー大統領の訪米中に ATACMS のウクライナへの移管を発表することはないと報じている。

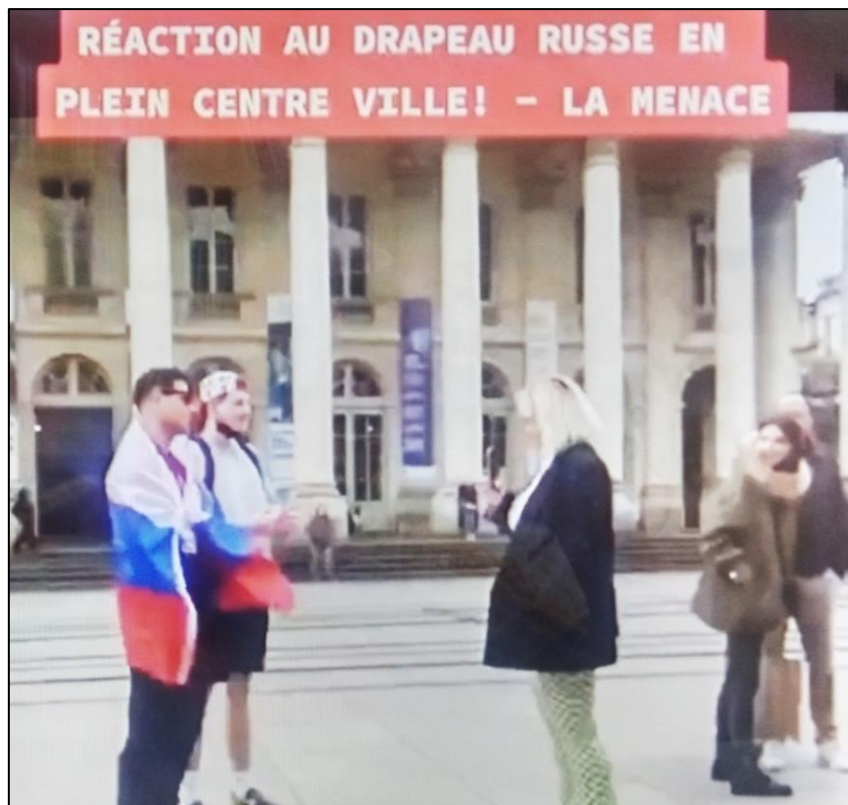
8 日、ロシア外務省のセルゲイ・リャブコフ次官は、ATACMS の供給の可能性について、米国が事態のエスカレーションを止めようとしておらず、その際のリスクは軽視していることを示していると述べた。リャブコフ外務次官はまた、ミサイルが戦場の状況を変えることはないと強調している。



## ⑤バルト三国を含むヨーロッパ地域では同じような挨拶がロシア人を待っているという(2023年9月17日)

※投稿者コメント:ただし警察の注意を引かないように感情を控えめに表現する。  
世界はロシアの正義に気付いている。

<https://twitter.com/i/status/1703356292134494489>



## ⑥岸田総理 国連総会に合わせニューヨークでゼレンスキー大統領と会談へ(TBS テレビ、2023年9月15日)

来週、アメリカ・ニューヨークで開かれる国連総会に合わせ、ウクライナのゼレンスキー大統領と岸田総理が会談する方向で最終調整が進められていることが、JNN の取材で分かりました。

ゼレンスキー大統領は来週 19 日からの国連での一般討論演説に合わせ、ニューヨークを訪れる予定ですが、ウクライナ政府関係者によりますと、滞在中、岸田総理と首脳会談を行う方向で最終調整が進められているということです。

実現すれば、ロシアによる軍事侵攻以降、3 度目の対面での正式な会談となります。

またゼレンスキー氏は 21 日、ワシントンでアメリカのバイデン大統領との会談にも臨む予定だということです。

ゼレンスキー氏の訪米について、関係者は「多くの首脳が集まる国連総会の場で支援の強化を訴えたい本人の強い希望によるものだ」としています。



## ⑦ロシア軍、4 戦線でウクライナ軍の攻撃を撃退 = 露国防省(2023 年 9 月 18 日)

ロシア国防省は 18 日、特殊軍事作戦実施地域の 4 方面でロシア軍がウクライナ軍の攻撃を撃退したと発表した。

同省によると、この一昼夜にザポロジエ、ドネツク、南ドネツク、リマンの 4 方面でウクライナ軍の攻撃の試みが計 9 回あった。いずれもロシア軍が撃退した。このうち、南ドネツク方面では 3 回の攻撃があり、ウクライナ側は最大で 170 人の兵力、7 つの兵器類を失った。

一方、ロシア領内へのウクライナによるドローン攻撃もあった。ロシア軍はクリミア半島の 4 カ所、モスクワ州の 2 カ所、ベルゴロド州とボロネジ州のそれぞれ 1 カ所で、ウクライナのドローンを撃墜した。

そのほか、ロシア軍はウクライナ東部ハリコフ州の装甲戦車工場をミサイルで攻撃した。この工場ではウクライナ軍の軍用車両の修理が行われている。



### ⑧大統領選共和党のどん尻を走るマイク・ペンスの弁(2023年9月18日)

「私は確信しています。もしウクライナの軍隊がロシアの侵略を止め撃退しなければ、遠くない将来に、NATO 条約に基づき軍服を着た我々の男性や女性たちが行って戦わなければならない国境をロシアは超えるだろうと。」



### ⑨リヴィウの人々の叫び(2023年9月17日)

※投稿者コメント:ウクライナのリヴィウで隣人たちが窓から徴兵軍事委員に悪態をつき始めた。ウクライナ市民だって見てられないのです。…崩壊はそこまで来ている。

<https://twitter.com/i/status/1703331310297878909>



道の向こう側に歩行者の強制動員風景。

### ⑩チェコでウクライナへの武器供給に反対する抗議行動(2023年9月18日)

2023年9月16日、プラハで「チェコ政府反対」大規模行動が開催され、キエフ政権の軍国主義化などを批判した。





## ⑪ジェイソン・モーガンはこういう「男」(2023年6月18日)

第5回 靖園の心を未来へ! 感謝の心をつなぐ青年フォーラム。

靖国神社でアメリカ人歴史学者が日本軍を絶賛!感動の演説! ジェイソンモーガン (麗浮大学准教授)。

<https://twitter.com/i/status/1670270873608265730>



## ⑫トランプ前大統領の弁(2023年9月18日)

ウクライナは、避けられたはずの紛争にすでに負けつつある。ウクライナはロシアと合意に達する機会を逃した。

ドナルド・トランプ元米国大統領は、キエフがロシアへの一部領土の返還を受け入れれば紛争を回避できたと考えている。

「正直に言うと、ロシアが既に併合したよりも小規模な領土喪失で合意に達した可能性がある。そうすれば誰も死ななかつたはずだ」とトランプ氏は NBC のインタビューで語った。



### ⑬ダグラス・マクレガー演説(2023年9月18日)

アメリカの魂は神のものであり、ワシントンのものではない。

グローバリズムは、あらゆる制度、国家政策、伝統を覆すイデオロギーである。

開かれた国境を作り、歴史を自分たちが紡ぐ物語に合わせて修正し、支配者層が世界を取り締まることを可能にする。

<https://twitter.com/i/status/1703555312395960386>



### ⑭プーチンのバイデンへのお返事(投稿日:2023年9月18日)

バイデンはウクライナ戦争の1年前 2021年3月に、プーチン大統領に対して公式の記者会見で『プーチンは人殺しだ』という謎の誹謗中傷発言をしてロシアを挑発していました。

それに対してプーチン大統領は、冷静に下記の通り反論をしました。

「自分がそうだからこそ相手がそうだと分かる」

「usこそ、先住アメリカ人を集団虐殺し、第2次世界大戦で広島と長崎に原爆を投下して一般市民を滅ぼしたと非難した」と話しながらも、

「お大事に。彼の健康を願う。これは皮肉でも冗談でもない」とバイデン大統領を気付かう慈悲的な意見を述べた事をタス通信が報じた。

<https://twitter.com/i/status/1703545734774276123>





## ⑮フランスのテレビのジョン・ケリーへの質問(2023年9月18日)

※投稿者コメント:フランスのテレビ司会者は、プーチン大統領の「侵略戦争」に対する米国の立場と、イラクに対するブッシュ大統領との間に二重基準が存在しないのかとジョン・ケリーに尋ねた。

ジョン・ケリーは当惑しながら、イラクは侵略戦争ではなかったと答えた。

★日本のテレビではありえない質問やな・・

<https://twitter.com/i/status/1703486780102639851>



## ⑯「わずかな結果のために多くの死」 マスク氏、ウクライナの反攻に啞然(2023年9月18日)

米実業家のイーロン・マスク氏は、ウクライナ軍が進めるいわゆる反転攻勢について、わずかな結果のために多大な犠牲が出ていると指摘した。著名投資家のデイビッド・サックス氏が、この頃公表したウクライナの反転攻勢に関する記事にコメントする形で明らかにした。

サックス氏は SNS「X(旧ツイッター)」に投稿した記事で、ウクライナの反転攻勢は当初掲げた目標を達成できていないと指摘。昨年4月のイスタンブールで行われた停戦協議では、ウクライナは合意の用意があったのに西側諸国が受け入れなかったため交渉決裂となったと持論を展開した。

また、サックス氏は元米陸軍将校デビッド・ペイン氏の記事を引用し、「ウクライナ軍が反攻で獲得した領土(青色の部分)は、地図上では殆ど分からない程微々たるものだ」と地図とともに説明した。

マスク氏はこれまでもサックス氏のこの記事に反応している。サックス氏はアフガニスタンを引き合いに出し、米政権がウクライナでも同じような失敗を犯そうとしていると警鐘を鳴らしているが、これに対しマスク氏は「よく言った」とコメントし賛同している。

露国防省によると、反転攻勢開始から3ヶ月あまりで、ウクライナ側は7万人の兵力と1万8000の軍事装備を失っている。

紛争激化を阻止

マスク氏が所有する民間宇宙開発企業スペース X 社の衛星インターネット通信「スターリンク」を巡っては、このごろ、クリミア半島での通信をマスク氏が制限してウクライナによるロシア海軍への攻撃を妨害したと報じられた。

これについてマスク氏は、そもそもクリミア半島付近でサービスは行っていなかったとしたうえで、「スターリンクを作動させてほしいとウクライナから緊急要請があったが、ロシア艦隊を撃沈するのが目的だったことは間違いない。もし私が彼らの要求に同意していたら、スペース X は紛争激化の共犯者になっていただろう」と断ったことを明かしている。

これを受け米上院の軍委員会は、米国防総省ではなくマスク氏に決定権があることを問題視し、調査を進めている。

